

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月14日

【評価実施概要】

事業所番号	3771100579		
法人名	株式会社アイ・ディー・エム		
事業所名	グループホームあすか		
所在地	香川県東かがわ市川東88 (電話) 0879-26-3015		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年8月9日	評価決定日	平成19年9月14日

【情報提供票より】(19年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 5月 1日
ユニット数	4ユニット 利用定員数計 36人
職員数	29人 常勤 29人、非常勤 人、常勤換算7.12人

(2) 建物概要

建物構造	S型3階建耐火建築造り 3階建ての2階～3階部分
------	-----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	44,000円	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200円	

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	36名	男性	11名	女性	25名
要介護1	6名	要介護2	12名		
要介護3	8名	要介護4	5名		
要介護5	5名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.2歳	最低	63歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団聖心会 阪本病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>3階建てのホームの2階部分をA・Bユニット、3階部分をC・Dユニットとしており、ユニット間の利用者交流がされ、いつも目の届くところでの支援がされている。窓や壁には、季節感のある飾りつけがある他、地区内の小学校の子どもたちからの手紙や作品が飾られ、地域との交流の取り組みにも努めていることが感じられる。午前中には、体操や歌などを取り入れたレクリエーションを行ない、午後からも折り紙や手芸など、ホーム内でも楽しめる支援を行っている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価を踏まえ、書式が見直され、個人記録をみれば、健康状態や日々のケア、介護計画、服薬内容等が分かりやすく整理されている。また、洗面所も高齢化・重度化に伴い、車椅子の方の使用が増えてきたが、洗面台の下にスペースがなく、利用しにくくなっていた部分を改修し、誰もが利用できるように改善されている。人員についても努力をされており、よりよい利用者支援がされるようグループホーム全体で検討されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニットがよりよい支援を行うため、職員全員が参加し、月1回のカンファレンス会議を行っている。各ユニットでは、職員からの声に耳を傾け、臨機応変に実施している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2か月に1回、地域の方や家族会、市町村担当者も参加して実施している。地域にグループホームを知っていただき、地域の方の理解を得ていくためにも、運営推進会議を活用していくことが望まれる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には、特変時や緊急時には連絡をすることはもちろん、面会に来られた時に、健康状態や生活状態を伝えるようにしている。金銭においても、使用した時には説明をして報告している。職員の異動については、新規職員の紹介を面会時に行っている。家族の意見は表れてくることは少ないが、要望や意見について話が伺えたときには、引継ぎで全職員に伝わり、改善していこうという取り組みが感じられる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者が高齢化・重度化してきており、地域に出る機会をもつことが難しくなっているが、地域の子どもたちとの交流は、定期的に継続して行われている。また、散歩や買物に出かけることで、地域の方々とのふれあう機会があるが、行事や地域活動への参加、老人会や婦人会等にも協力をいただき、地元の人々との交流を広げていくことが期待される。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者が高齢化・重度化してきており、地域に出る機会をもつことが難しくなっているが、地域の子どもたちとの交流は、定期的に継続して行われている。また、散歩や買物に出かけることで、地域の方々とのふれあう機会があるが、行事や地域活動への参加、老人会や婦人会等にも協力をいただき、地元の人々との交流を広げていくことが期待される。</p>

2. 評価結果（詳細）

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念で、人と人とのふれあいを大切にしながら、暮らせるようなサービスを目指して支援されている。ホームを利用されている方にとって、地域のなかで暮らし続ける支援はどのようなものが望ましいのかと、前向きに取り組まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホームの居間やスタッフルーム、エレベーターに提示されている。毎朝の申し送り時に唱和して、理念の共有化がなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校との定期的、継続的な交流が行われている。利用者も子どもたちの訪問を楽しみにされている。また、散歩や買物に出かけた時には挨拶をして、少しでも地域の方との交流となるように努めている。	○	地域の老人会、婦人会、ボランティアの協力を得て、地域活動に参加していくことが望ましい。自治会に加入し、地域活動や行事へ参加していくことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を踏まえ、車椅子の方も洗面所にて自分で洗面ができるよう改修を行った。また、言葉使いや書式の見直しも行う等、具体的な改善がされている。今回の評価においても、前向きな取り組みがうかがえる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、地域の方、家族会、市の担当者の方と、職員による会議が開催されている。地域の方は、グループホームを知らない方が多い。	○	運営推進会議において、グループホームを理解していただけるよう協力をお願いすることが望まれ、今後の民生委員や自治会長などの協力が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者は運営推進会議にも参加しており、連携している。推進会議以外にも市の担当者へ問い合わせを行い、アドバイスをいただき、ホームの運営に活かすことができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭については、使用した時に、明細とあわせて報告を行っている。面会時にも暮らしぶりについて、話をするようにしている。変わったことがあった場合や緊急時には連絡をしている。	○	ホームでの暮らしぶりや健康状態を、定期的に家族に知らせをしていくことが望まれる。あすか便りを送る際に、金銭とあわせて普段の様子を伝えたり、写真を同封する等の配慮が期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の希望を聞き取ることは難しいと感じることが多いのだが、家族との話の中で、声かけの仕方や対応についての意見を伺うことができたため、周知を行い、より良い支援を行うように職員全員で取り組んでいる。意見箱は2階・3階の入り口におかれているが、1階入り口にも用意し、意見が書きやすい雰囲気作りが望まれる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や退職による影響を考えて、異動時には最小限の異動となるようにしている。家族から異動をしないで欲しいとの要望もあるが、支援の幅が広がることを伝えている。ユニットが変わっても、職員は面会に行ったり、他の職員が利用者の不安を取り除くことができるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内は、スタッフルームに掲示され、職員の誰もが参加できる仕組みになっている。働きながらスキルアップのための資格試験を受けることもできる。	○	研修は参加できるが、職員に応じた研修計画をたて、休日を利用しての参加とにならないことが望まれる。研修を受けたあとの周知についても、徹底することでホーム内の研修にもなり、支援方法の技術アップにもつながるので期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム以外の同業者とのかかわりは、一昨年前に東かがわ市のグループホーム3件で、ネットワーク作り行ったが、その後、開催されておらず、今後このネットワークを活用できるのではないかと感じられる。	○	定期的な研修を受けることで、他のホームの方とも交流を広げるきっかけ作りになることが期待される。東かがわ市のグループホームが集まり、ネットワーク作りやグループホームの質の向上に向けた取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学は、主に家族の方がされている。入居時には馴染みのものを持ってきていただいている。職員の声かけや見守り、家族の面会等で、ホームに馴染めるよう支援している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	宅配のパンの購入や、近くのスーパーでの買物、近隣の散歩など、本人の希望にあわせて出かけている。くす玉作りや壁飾りなども共に作成する等、本人とともに過ごすようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中での声かけや、見守りの中での把握に努めている。言葉や表情の中から、本人の思いを理解するようにしている。日々の生活の中での変化に気づいた時には、カンファレンスを開き、全員で早急に対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には、介護計画の見直しの際に、変更の希望をあらかじめ伺っているが、希望があがってこない。カンファレンスは職員と看護師が行い、本人の健康状態や生活の変化等にも配慮した介護計画になるよう作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度、定期的に介護計画の見直しを行っている。家族はカンファレンスには参加しないが、希望をあらかじめ伺っている。健康状態や生活状態に変化が見られたときには、介護計画の見直しを行い、現状にあったサービスの提供と情報の共有に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	ホームだけの支援ではなく、 事業所内の通所リハビリにも、 行事の際には一緒に参加して いる。入浴も特別浴は、通所 リハビリの設備を活用している。	○	ナーシングホームや病院もあり、 同じ建物内には通所リハビリも あるため、行事以外にもお互い のホームを行き来することで、 顔なじみの方とのふれあいや、 サービスも多様化したものが 提供できると思われる。事業所 の物的資源だけでなく、人的な 資源をうまく活用していくこと が望まれる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ 医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように 支援している	協力医療機関の他にも、歯科、 眼科などからも往診に 来ている。家族からの希望が あれば、協力医療機関以外の 通院も支援ができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の 共有 重度化した場合や終末期のあり 方について、できるだけ早い段 階から本人や家族等ならびにか かりつけ医等と繰り返し話し合 い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化に対応した同 意書による確認が、家族とホ ームの間で行われている。関 係書類の整備もされており、 重度化の場合には、カンファ レンスによって方針が立てら れている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシー を損ねるような言葉かけや対 応、記録等の個人情報の取り扱 いをしていない	言葉かけには配慮し、職員全 体で取り組んでいる。洗濯は たたむことを手伝ってもらっ ているが、最終確認をして、 片づけを行い、他人のもの との区別ができるような取 組みがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先 するのではなく、一人ひとりの ペースを大切に、その日をど のように過ごしたいか、希望 にそって支援している	午前中はレクリエーションを 行い、歌や体操を行うなか で機能維持に努めている。声 かけによって参加をお願い しているが、参加したくない 方はテレビを見たり、居室 で過ごす等、一人ひとりの 希望に添った支援がされて いる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は調理し、配膳されたものが提供されている。湯呑みは各自のものが用意され、使用されている。ご飯を炊く、汁をつぐことは、各ユニットでされている。	○	調理は難しくても、使い慣れた自分の食器に目の前で配膳されることで、家庭と同じように感じることで期待される。今後は、誕生会などのイベントやおやつには、簡単にできるメニューで、共に作っていくことを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴は、特別浴、一般浴の曜日と時間が決まっている。浴室は各階にあり、一人ひとりが職員の見守りのなか、支援できている。	○	職員の勤務ローテーションを見直し、できるだけ夕方に入浴支援することが望まれる。一般浴槽が深いため、特別浴を利用されている方も多と思われる。浴槽の高さ調節を行うための住宅改修や、福祉用具の活用も望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	午前中は、レクリエーションを行い、機能維持に努めている。食後の湯呑み洗い、洗濯たたみ等、役割をもった生活支援ができている。午後からは、新聞たたみや塗り絵、ちぎり絵、折り紙など、一人ひとりにあった役割や楽しみに参加できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援として、散歩や買物、通院など、一人ひとりの希望を日々の生活に取り入れている。花見や小学校の行事参加など、季節に応じた外出支援も行われ、生活が単調にならないよう工夫されている。	○	外出支援は、一部の方に限られることなく、誰もが戸外へ出かけられることが期待される。また、老人会や婦人会、ボランティア、家族に協力をお願いし、ホームの中だけの支援とならないよう今後の取り組みが期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の2階、3階部分での生活で、1階玄関前の部分は病院の駐車場となったため、危険防止のため鍵をかけざるを得なくなっている。入居時に家族には、了承を得ている。	○	1階、2階、3階の各入り口にセンサーや鈴などを活用し、鍵をかけない工夫を進めていくことが望まれる。また、高齢化・重度化しているため、鍵をかけなくても対応できるユニットへの支援が期待できる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルは作成され、職員がそれぞれ持っている。緊急時の体制については、スタッフルームに掲示されている。避難訓練は年1回実施されている。	○	マニュアルは職員個人で持つものの他に、誰もがいつでも見ることのできるような工夫が望まれる。避難訓練も年2回は実施し、実際に、階下への避難についても経験してみることが望まれる。また、日々の生活の中でも訓練を行い、身につけておくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、配膳されたものが提供されている。栄養量も腎臓病食以外は一定である。栄養制限のある方には、おやつで調整されている。水分量は、医師の指示のある方のみ、水分補給の支援が実施されている。	○	腎臓病食以外の合併症のある入居者についても、栄養量や栄養バランスについて工夫が望まれる。医師と栄養士との連携をとって、一人ひとりに対応した健康支援が期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の窓や壁には、季節の飾りつけがされている。職員が全て準備するのではなく、絵を描いたり、切り取ったり等は共に行っている。毎食のご飯はユニットごとに準備をしているため、ご飯の炊ける香りなどで、生活感を感じることができる。2ユニットの方が利用するため、居間はいつも多くの方が過ごされている。静かな環境を望む方への配慮として、ソファやパーテーションを活用し、過しやすい空間作りをしていくことが望まれる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みのものを居室に置いて、本人の居心地が良い空間作りを行っている。		